

# 主題 Title(16pt)

著者 Author(12pt)

所属 Affiliation(12pt)

## 概要

研究のまとめ、概要について書いてください (目安:日本語で 500 文字以内、英数字で 200 語以内)。

## 1. はじめに

これはシンポジウムの予稿テンプレートです。テンプレートを使うときは `symposium.sty` というファイルを `tex` ファイルと同じ場所に置いてください。この資料をもとにシンポジウムで発表する内容をまとめた 2~6 ページ程度の予稿を作成して下さい。

フォントサイズは原則 9pt とします。セクションを始める場合は `\section{セクション名}` のように書いてください。脚注を書きたいときは `\footnote{}` を使ってください<sup>1</sup>。

### 1.1 サブセクション

サブセクションを始める場合は `\subsection{サブセクション名}` のように書いてください。

## 2. 原稿作成の手引き

このセクションでは図、表、数式を挿入する方法について書いておきます。

### 2.1 図

`template_tex.tex` の 44~51 行目のように `figure` 環境を使うと以下の図 1 のように図が挿入できます。なお本文中で図を参照するときは `\ref{fig:ACO}` のようにキーワードを指定し、何度かコンパイルし直してください。

### 2.2 表

表は書くのが面倒なのであらかじめ Web アプリ<sup>2</sup>などで `Latex` 用コードを出力してもらいましょう。`template_tex.tex` の 58~71 行目のように `table` 環境と `tabular` 環境を使うと以下の表 1 のようになります。

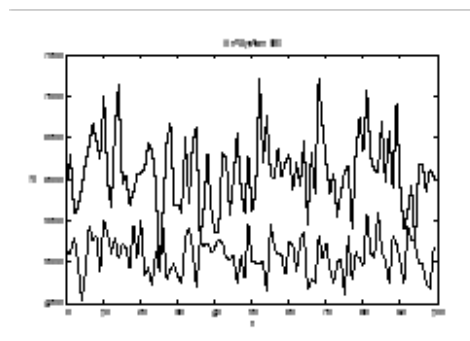


図 1: ACO のグラフ

表 1: 天気

日付	午前	午後
9.1	晴れ	晴れ時々曇り
9.2	曇りのち雨	雨
9.3	晴れ	晴れ

### 2.3 数式

`equation` 環境 (単一の数式専用) や `align` 環境 (複数でも大丈夫) が使用できます。以下では 78~81 行目の `align` 環境を用いた書き方による式 (1) を示します。

$$a^2 + b^2 = c^2 \quad (1)$$

## 3. 参考文献の書き方

91~95 行目に示すように `\end{document}` の上に `thebibliography` 環境と `\bibitem` コマンドを使って参考文献リストを記述し、本文中の引用した箇所では `\cite` コマンドを使ってそれを明示してください (こんな感じ [1])。

## 4. 参考文献

- [1] T. Arita, R. Suzuki. (2000), Interactions between Learning and Evolution: The Outstanding Strategy Generated by the Baldwin Effect, Proceedings of the Seventh International Conference on Artificial Life, 2000, pp 196~205.

<sup>1</sup>そうするとこのように表示されます。

<sup>2</sup>例えば <https://www.tablesgenerator.com/>